あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール 情報誌

THE PHOENIX HALL

Salon

Vol.109　2017年7月　夏号

ホール3F 壁画 ポール・ギアマン作「ヴァイオリニスト」

CONTENTS

01 Prime Interview ── 今井信子
03 Phoenix Presents ── 伊東信宏企画
三輪眞弘+前田真二郎 モノローグ・オペラ「新しい時代」
サンデー・クラシック・サロン
〜“赤”から連想する曲目（プログラム）のミステリー〜
05 Pick Up
07 Essay de say ── 通りすがり客のためのコンサート？　岡田暁生

あいおいニッセイ同和損保

ヴィオラ界を牽引してきた世界的ヴィオリスト
今井信子さん

今井信子(いまい・のぶこ／ヴィオラ)
桐朋学園大学卒業。イェール大学、ジュリアード音楽院を経て、1967年ミュンヘン、1968年ジュネーヴ両国際コンクール最高位入賞。1970年西ドイツ音楽功労賞受賞。これまでにベルリン・フィル、ロンドン響、パリ管、ボストン響などと、また室内楽ではアルゲリッチ、クレーメル、マイスキー、五嶋みどりらと共演している。<ヴィオラスペース>の企画・演奏に携わるなどヴィオラ界をリードする存在として目覚ましい活躍をしている。2003年ミケランジェロ弦楽四重奏団結成。2011年4月よりあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドヴァイザー。アムステルダム音楽院、クロンベルク・アカデミー、ソフィア王妃高等音楽院各教授。上野学園大学特任教授。

世界的ヴィオリストとして活躍を続ける一方、後進の育成に力を注ぎ、多くの先鋭的な企画を通じて、ヴィオラという楽器のイメージ自体に革命をもたらした今井信子。1992年から東京でヴィオラを主役としたコンサート・シリーズ「ヴィオラスペース」を立ち上げ、2005年からは、ザ・フェニックスホールでも毎年、大阪公演を開催。2011年からは、ホールの音楽アドヴァイザーも務め、ヴィオラを中心に様々な側面から、音楽の魅力を伝えている。そんな名手が今回、紹介してくれる新しい響きの世界は、ヴィオラのみによる四重奏。「奏者の個性や感性を反映し、多彩に変化するヴィオラの音色を味わってもらえれば。そして何より、音楽の喜びと楽しさが伝われば…」と期待を露わにする。ヴィオラの可能性を広げたにとどまらず、むしろ、ヴィオラという楽器を介して、「新たなジャンルを創造して来た」と言っても過言ではない今井。若き音楽仲間と共に、未知なる響きの世界へと、聴衆を誘(いざな)う。

(取材・文:寺西 肇／音楽ジャーナリスト)

今回は、「ヴィオラ・クァルテット」という珍しい編成。発想のきっかけは。

小樽で開いているマスタークラス(＊1)で、ごく自然に生まれました。あそこは一対一で教えるのが基本で、室内楽は主ではなかった。でも、余暇に「皆で何かやろうよ」と曲を持ち寄るようになって…やがて正式にカリキュラムに入れて、ステージにも乗せるように。多くの人が「やりたい」と思ってくれたお陰で、広がってゆきました。

その醍醐味とは。

ヴィオラは、様々な音が出る楽器です。同じ高い音域でも、トランペットのように華やかで鋭い音も出れば、心に迫る深い音も出せる。低い方に向かうと、少しセンチメンタルになって、どんどん暗く…この辺の印象から「いぶし銀」と表現する人も。それより下は、チェロにも共通する、陰影のある音もします。ショスタコーヴィチも、バルトークも、たくさんの作曲家が、生涯の終わりの方で、「ヴィオラの曲を書きたい」と思った気持ちも、分かる気がします。そして、ヴィオリストも人によって、好きな音域が違うんじゃないかしら…私は、高い音が好きですね。四重奏になると、多彩な音色が互いに溶け合い、独特の響きを創ります。とっても楽しくて、やがて病みつきに…(笑)。

編曲も、重要なキーですね。

音域の広いチェロなら可能なことでも、私たちヴィオラの音域は中音域に固まっていて、難しいことも。そういう意味では、まず、編曲者が苦労するんです。「せめてチェロを1本、入れてほしい」と懇願されることもありますよ(笑)。

共演の3人は、若い方ばかり。

年齢からすれば、私の半分くらい(笑)。でも、このメンバーは、ヴィオラの演奏に、しっかりと喜びを

可能性広げる 新たな挑戦

Imai Nobuko

見出している人たち。みんな素敵ですよ。ファイト・ヘルテンシュタインは律儀なドイツ人気質の一方、深みがあって自由で、繊細さも持ち併せている。ウェンティン・カンは、マドリッドのソフィア王妃高等音楽院で私の助手を務めてくれていて、とても優秀。艶っぽい音が魅力的です。そして、ニアン・リウも、私の大好きな人(笑)。上海で「Viva la Viola(ヴィオラ万歳)」という隔年の音楽祭で、ヴィオラ・オーケストラのコンサートマスターも務めてくれています。巧いし、とっても楽しい人なんです。

柱のひとつは、バルトークの二重奏曲。四重奏のステージで、あえての二重奏なんですね。

そう(笑)。この曲は本来、教育を目的に、2本のヴァイオリンのために書かれています。様々な場面でハンガリーの農民が歌う、土着の旋律を基に、ほぼファースト・ポジションで弾けるほど、テクニックは平易。でも、音楽上は、バルトークの真髄と言って良いほど、素晴らしい曲です。実は昨年5月、この曲を集中的に勉強しようと、ウェンティンと2人で、ブダペストへフィールドワークに出かけました。バルトークと私たちの"間にいる"ような存在の地元のヴァイオリニスト、ミハーリ・シポス(*2)さんに会い、バルトーク本人が録った農民の歌の録音を聴き、勉強しました。そして、マドリッドに戻り、この6月まで数回に分けて、全44曲にわたって、成果を披露したんです。それがとても刺激的で、今回もぜひ、皆で手分けして弾きたいと…。バルトークによる録音や私たちの話を、聴衆の皆さんに聴いていただいた上で、演奏したいと考えています。
その前には、バルトークの「トランシルヴァニアの夕べ」を四重奏で弾きます。ブダペストのレストランで夕食を取った時、偶然、ロマのバンドが、この曲を弾いていて、「何の曲?」って尋ねたら、バルトークだと。調べたら、作曲家本人がピアノで弾いている映像も残っていて、実に素晴らしい。そして、私の"戦友"のようなヴィオリスト、エミル・ルドゥメーニが、四重奏に編曲してくれました。

幕開けにダウランドを置きました。その意図は。

いきなり重厚なバッハより、イントロダクションのようにリュート・ソングを置いて、気軽に入っていきたい、と…。この曲はブリテンによるヴィオラとピアノのための編曲があって、これを基にした四重奏版でお楽しみいただきます。

そして、有名なバッハの無伴奏ヴァイオリン作品を下敷きにした野平一郎さんの《シャコンヌ》。原曲にない対旋律や和声など、独創的ながら、全く違和感を持たせない、不思議かつ見事な作品です。

「ヴィオラスペース」で委嘱して17年、今や世界中で演奏されています。動画サイトのお陰で、あっという間に広まりましたね。私たちにとって、この曲は「原点」であり、ヴァイオリンで「シャコンヌ」を弾くことが、もはや想像できないほど(笑)。ヴィオラ特有の音色を巧く使い分け、旋律自体もパート間を頻繁に往き来し、誰が受け持っているのか、判らない場面も。まさに、世界中のヴィオリストが「発信」した作品、と言えましょう。

そして、シューマンとピアソラの佳品も。

「こどもの情景」は、私が大好きで、ぜひ弾きたくて…(笑)。元はピアノ曲で、技術的には難しくなるでしょうが、「トロイメライ」など有名な旋律もあり、楽しんでいただけるはず。シューマンには、私たちヴィオリストにとって大切な「おとぎの絵本」という曲もあって、これも幻想的な曲ですし、どこか共鳴する感覚もありますね。
そして、最後にピアソラを置いたのは、こういう情熱的な感じで、ステージを締め括りたかったから。ヴァイオリンやチェロなら、もっと派手な感じにはなるかもしれないけど、きっと、ヴィオラならではの魅力がお伝えできるはずです。

ヴィオラを取り巻く現状を、どうご覧になりますか。

「オマージュ・トゥ・ヴィオラ(ヴィオラに身を捧げる)」かのように、楽器と一体になって、演奏に取り組む人たちが増えました。結局、ヴィオラ・パートが充実すると、特に室内楽はとっても、面白くなるし…これがないと、逆にエンプティ(空っぽ)な音楽になる。この考えが、徐々に浸透してきました。実際に、ヴィオラがハーモニーを動かす場面は良くあるし、それを分かってほしい、とずっと思い続けてきましたから。

若い奏者たちはいかがですか。

能力の高さは、私たちの世代と比べ物にならないですね。リゲティの無伴奏ソナタなんて、私たちの世代では弾きこなせる人はあまりいなくて、私も必死で学びましたけど、今の人たちなんて、まるでスポーツみたいにぱっぱっと弾けちゃうんですよ。そして、それぞれにとても真摯に取り組んでいる。ただ、時代のせいで、情報がありすぎるから、ひとつの事に打ち込み難い、とは感じます。私たちの頃は、ショスタコーヴィチのソナタですら、ラジオで初めて聴いて、「いい曲だけど、どうしたら楽譜が手に入るのか?」から始まる時代でした。放送局で録音やコンサートをするのに、曲を提案すると「これは編曲だから駄目だ」と言われ、困り果ててしまう経験も多くしました。今や編曲も受け入れられ、レパートリーも無限に広がりました。半面、ひとつのことが出来て歓びを覚えるのでなく、様々なことに手を出して、目が眩んじゃうことがあるのでは。そう考えると、私たちは幸せな時代に生きたのかな、とも感じています。

そんな中で、今井さんの次なる目標とは。

私は、できることから始めるタイプ(笑)。来年は第4回東京国際ヴィオラコンクールが開かれ、間もなく予備審査が始まります。実力のある人が大勢来てくれて、これからリーダーシップを執る人を育ててゆければ、嬉しいですね。

ザ・フェニックスホールは、今井さんの発信の拠点のひとつですね。

とってもアットホームで、まるで自宅で弾いているような気分にさせてくれるホール。聴衆の皆さんも、ヴィオラをとても愛し、良く知ってくださっていると実感しています。ヴィオラの音は、内面に響くんです。今回のプログラムも、皆が元気になって、感動できる曲を選びました。何より、「音楽っていいな」と思っていただけたら、幸せですね。

*1 「ゆらぎの里ヴィオラマスタークラス」は、今井の発案により、2004年にスタート。小樽市郊外の朝里川温泉で、毎年1月の7〜10日間、集中レッスンと発表演奏会が行われている。
*2 ハンガリーを代表する民俗音楽アンサンブルMuzsikás(ムジカーシュ)の創設者でリーダー。ハンガリー民俗音楽のスペシャリスト。

「今井信子presents ザ・イマイ・ヴィオラ・クァルテット ～ヴィオラ・フェスタ～」は、2017年9月19日(火)午後7時開演。入場料は、一般4,500円(友の会4,050円)、学生1,500円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06・6363・7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。
[プログラム]
ダウランド(小早川麻美子編):もし私の訴えが
野平一郎:
《シャコンヌ》～ヴィオラ四重奏のための(2000)
—J・S・バッハの"無伴奏ヴァイオリンのための
パルティータ 第2番"BWV1004による
バルトーク(エミル・ルドゥメーニ編):
トランシルヴァニアの夕べ
バルトーク:44の二重奏曲 BB104 Sz.98より
シューマン(杉山洋一編):こどもの情景(2017)
ピアソラ(小早川麻美子編):
タンゴの歴史より売春宿 1900/カフェ 1930
エスクアロ(鮫)

7月21日(金)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

7月24日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

7月25日(火)
10:00
一般発売
インターネット予約、ご来店による
お申込みは7月26日(水)10:00から!

注目アーティストシリーズ68

2017年12月16日(土)

16:00開演　指定席
一般¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生¥1,000(限定数)

デジタルの神に身を捧げる無垢な少年の「儀式」を描いて衝撃を与えた問題作が17年の時を経て蘇る

伊東信宏 企画
三輪眞弘+前田真二郎 モノローグ・オペラ「新しい時代」

曲目　三輪眞弘:モノローグ・オペラ「新しい時代」

作曲・脚本・音楽監督　三輪眞弘
演出・映像　前田真二郎
出演　さかいれいしう(ソプラノ)、
岩野千晶、木下 瑞、
日笠 弓、盛岡佳子
(キーボード/大阪大学
『記憶の劇場』プロジェクト受講生有志)

スタッフ　メディアオーサリング:古舘 健
グラフィック:岡本彰生
フォルマント音声合成:佐近田展康
音響:ウエヤマトモコ
テクニカルサポート:大石桂誉
照明:畔上康治(愛知県芸術劇場)
衣裳:岩井亜希子
演出助手・制作:福永綾子(ナヤ・コレクティブ)

協力　情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]、大阪大学『記憶の劇場II』プロジェクト
助成　公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団
共同企画　愛知県芸術劇場
22世紀クラブ委嘱作品(2000年)

2017年度は、三輪眞弘さんのモノローグ・オペラ『新しい時代』再演に賭けています。2016年12月に三輪さんの作品を集めた公演を行いましたが、これもオペラ再演を目指すプロセスの一つでした。私は2000年に初めてこのオペラを観て以来、ずっとこの作品に魅せられてきました。14歳の少年を唯一の登場人物とし、オーケストラも序曲もない破格の作品です。ここで提起された「信仰」、「言葉」、「ネット空間」といった問題群は、薄っぺらな「正義」や「正統性」が猛威をふるう現代にあって、ますます重要性を増しているように思われます。この作品がいま、私たちの社会にあってどのように響くか、皆さんと一緒に見届けたいと思います。
伊東信宏(大阪大学教授、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドヴァイザー)

三輪眞弘(みわ・まさひろ/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授)

1958年東京生まれ。1974年都立国立高校入学以来、友人と共に結成したロックバンドで音楽活動を始める。1978年渡独、国立ベルリン芸術大学で作曲をイサン・ユンに師事。1985年より国立ロベルト・シューマン音楽大学でギュンター・ベッカーに師事する。佐近田展康と共に「フォルマント兄弟」としての創作・思索・講演活動や、CDアルバム「村松ギヤ(春の祭典)」(2012)リリースなどその活動は多岐にわたる。著書に「コンピュータ・エイジの音楽理論」(1995)、さらに「三輪眞弘音楽藝術ー全思考1998-2010」により2010年度第61回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。旧「方法主義」同人。

前田真二郎(まえだ・しんじろう/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授)

1969年大阪生まれ。映画、メディアアート、ドキュメンタリーなどの分野を横断して、イメージフォーラムフェスティバル、恵比寿映像祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭などで発表。舞台や美術など他領域アーティストとのコラボレーション、展覧会の企画も積極的にすすめている。2005年よりDVDレーベルSOL CHORDを監修。WEBムービー・プロジェクト"BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW"が、第16回文化庁メディア芸術祭・アート部門で優秀賞を受賞。

©Masao Kohmra

さかいれいしう(ソプラノ)

石川県生まれ。武蔵野音楽大学にて声楽を佐伯真弥子氏に、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)でアルゴリズミックコンポジションを三輪眞弘氏に師事。詩人の松井茂と詩と声のユニット「PreAva」を結成(2006)。声をテーマに活動し、これまでに幸村真佐男、銅金裕司、吉野裕司、真鍋大度、シマカワコウザ、トリ音、ロイヤルハンチングスほか、さまざまなアーティストとコラボレーションを行ってきた。金沢大学能登里山里海マイスター育成プログラムを修了(2014)し、里山で子どもと大人が楽しめる演奏会やアートイベントを企画している。「2016年3月能登、さかいれいしう。」をリリース。

サンデー・クラシック・サロン1

2018年1月21日(日)

15:00開演　指定席
※2時間30分公演の予定
一般¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生¥1,000(限定数)

当日まで明かされないシークレット・プログラム
2組のアーティストが“赤”から導き出すイメージ(曲目)とは？
さて、あなたならどんな曲を想像しますか？

サンデー・クラシック・サロン
～“赤”から連想する曲目(プログラム)のミステリー～

出演　【第1部】藤江扶紀(ヴァイオリン)、山中惇史(ピアノ)【第2部】沼沢淑音(ピアノ)　　曲目　シークレット(当日までプログラムの内容は明かされません)

このコンサートは、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールがお届けする、音楽を楽しむための新たな提案です。当ホール一押しの二組のアーティストが登場しますが、演奏曲目は全てシークレットです。理由ですが、選曲というのは演奏家にとって表現の大きな部分を占めます。こうした思考の過程を敢えて隠すことで、皆様に想像していただきたいのです。二人には“赤”というテーマでプログラムを作成していただきました。どちらも個性的なプログラムで、明確なコンセプトがあり、非常に楽しいプログラムになっています。私の印象としては、藤江さんのプログラムは、大らかで柔らかな温もりを感じさせるようなイメージ。対する沼沢さんは、人生そのものを感じさせるような、哲学的で思慮深いイメージのプログラムとなっています。どうでしょう？皆様ならどんな曲を想像しますか？このほか、曲目に関する情報は、チラシや情報誌「salon」、ホームページなどで随時公開していく予定です。皆様には、アーティストの気持ちになって考えていただくのもよし、自分なりのプログラムを想像し、比較していただくのもよし、はたまた当日びっくり箱を開けるように楽しんでいただくのもよし、と、それぞれ楽しんでいただければ幸いです。コンサート当日、アーティスト自身からプログラムを発表していただき、選曲の理由を話していただいてから演奏していただきます。謎は全てコンサートで明かされるのです！これまでにない、知的な遊び心が満載されたコンサート。様々な想いを巡らせながらザ・フェニックスホールへお越しください。お待ちしております。
宮地泰史(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール　チーフ・マネジャー)

藤江扶紀(ふじえ・ふき／ヴァイオリン)　大阪府出身。2011年、第80回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第1位。宮崎国際音楽祭などに招待され、ソロリサイタルや室内楽リサイタルを行う。これまでに、東京交響楽団、京都市交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニー管弦楽団などと共演。東京藝術大学在学中に、安宅賞、アカンサス賞、同声会賞受賞。同大学を卒業後、公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生として渡仏し、翌年2014年春、フランスでLa Fondation Banque Populaireを受賞。2016年6月、パリ国立高等音楽院 第二課程(大学院)を卒業。

山中惇史(やまなか・あつし／ピアノ)　東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、同大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。在学中より漆原啓子、漆原朝子、清水高師、ピエール・アモイヤルの各氏をはじめとする国内外の著名な演奏家との共演、又は委嘱を受けるなど、ピアニスト・作曲家として幅広く活動する。ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、仙台クラシックフェスティバル、NHK-Eテレ「クラシック音楽館」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」、BS-TBS「日本名曲アルバム」などに出演。現在は東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻に在学し研鑽を積む。

沼沢淑音(ぬまさわ・よしと／ピアノ)　アルフレッド・シュニトケ国際コンクール、ポッツォーリ国際ピアノコンクール優勝。浜松国際ピアノコンクールにおいて「アルゲリッチ芸術振興財団賞」「ネルセシアン賞」を受賞。東京でのラ・フォル・ジュルネ音楽祭で演奏、別府アルゲリッチ音楽祭など、国内外で演奏する。仙台フィル、アンサンブル金沢、ロシアシンフォニーオーケストラと共演など、国内外のオーケストラとも多数共演している。また室内楽にも積極的に取り組み、2010年、崎谷直人・新倉瞳両氏とのピアノ・トリオのCDを発売。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマを経て公益財団法人ロームミュージックファンデーションの奨学生として2015年にモスクワ音楽院を卒業。

ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999
土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約
・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

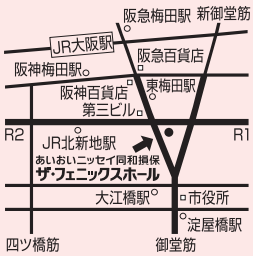
■一般発売
・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

http://phoenixhall.jp/
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約 (主催公演のみ)
・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店によるお申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法　下記①または②のどちらかとなります。

①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00です。
②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座　00940-0-95351　　加入者名　ザ・フェニックスホール

フェニックス・エヴォリューション・シリーズ83　　主催　YUKA MAEDA RECITAL DE PIANO

2018年1月24日(水)

19:00開演　指定席

一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250)
一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生前売¥1,000
学生当日¥1,500

出演　前田裕佳(ピアノ)

近現代フランスのエスキス、エスパス、エスプリ
～前田裕佳 ピアノリサイタル～

曲目　ドビュッシー:『ベルガマスク』組曲より「月の光」
『前奏曲集第2巻』より「霧」、「月の光が降り注ぐテラス」
ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ、『鏡』より「悲しい鳥たち」
プーランク:『3つの小品』より「パストラル」、「トッカータ」
メシアン:『4つのリズムのエチュード』より「火の島1」
P・ブーレーズ:12のノタシオン、天体暦の1ページ
H・デュティユ:レゾナンス、プレリュード
T・ミュライユ:ラ・マンドラゴール
G・ペソン:No-Ja-Li
P・ルルー:AMA 1
B・マントヴァーニ:明暗のための練習曲

西洋音楽史に新しい「伝統」を築きつつ新古典主義的な側面を持つドビュッシー、ラヴェル、プーランク、独自の音階システムを基に凝集した和音を用いたり音素材のあらゆるパラメーターを再構成したO・メシアン、P・ブーレーズ、それらフランス人作曲家による潮流を受けつつも自らは否定する態度をとりながら、結局はその流れを受け継ぎ古典的に音を紡ぐH・デュティユ、響きそのものを創作の源とした"スペクトル楽派"のT・ミュライユ、それら響きの妙技を現代の感覚で彩るP・ルルー、G・ペソン、B・マントヴァーニに至るまでのフランス人作曲家のエスキスesquisse(素描～フレーズ)、エスパスespace(空間～音響や静寂)、エスプリesprit(精神)を再現する。作曲家の作風の変容によって映し出される空間、そして、同時代作曲家達が延伸させることによって創造した空間、そこに"フランス的"精神が浮かび上がる。

前田裕佳(まえだ・ゆか／ピアノ)　神戸大学発達科学部人間行動表現学科音楽表現論卒業。同大学院修了。パリ・エコールノルマル音楽院(ピアノ科)で、ディプロムを授与される。特に審査委員長のディビット・ライヴリー氏に、デュティユとリストの音色について高い評価を得る。演奏活動は形にとらわれず、第20回テグ国際現代音楽祭に招かれ自作曲を発表、日本調律師協会主催「リクエストコンサート」、NHK学園(西宮)での「おフランスの香り～印象派以降の音と色～」講座、「ブルーアイランド氏のピアノ連弾の楽しみ」の演奏、神戸大学学術weeks2012主催「M-i/a/e-x/t/d-re-am/me Con-temporary-cert at Kobe」出演、兵庫県合唱連盟主催コンサートや全日本合唱連盟主催こどもコーラスなどの伴奏、パリの音楽カフェのVissi d'arteやノートルダム・ドゥ・ボンヌヌーベル教会や大阪南港ATCサンセットホールなどで、ソロや室内楽のコンサートを企画、リサイタル「メロディとソノリテ(響き)の交錯/フランスと日本のレフレクシオン(反響)」、日本建築協会U-35委員会主催レクチャーコンサート「建築とリズム」など、行う。また、大学合唱団や一般合唱団の伴奏も意欲的に行う。ピアノを、佐野彰子女史、オディール・ドゥラングル女史に、室内楽をニーナ・パタルチェック女史に、作曲を田村文生氏に、指揮法を斉田好男氏に師事。神戸大学、梅花女子大学、各講師。

フェニックス・エヴォリューション・シリーズは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の芸術文化支援活動の一つです。同社が運営するあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール(大阪・梅田)での公演企画を公募、審査で選ばれた方にホールと付帯設備を無料で貸与致します。

Osaka Guitar Summer

Osaka Guitar Summer 2017　関連プロジェクト

福田進一とホセ・アントニオ・エスコバルによる公開マスタークラス&ギターアンサンブル公開ワークショップの聴講募集開始

要申込み
受付開始 7/21(金)10:00

Osaka Guitar Summer 2017では、マエストロ福田進一さんと、世界トップクラスの演奏家によるコンサートを中心とし、これら演奏家が次代を担う若者を指導する「公開マスタークラス」、アマチュアギタリストを対象にギターの楽しさに触れて頂く「ギターアンサンブルワークショップ」、そして受講生や講師たちの演奏を披露する「フェスティバルコンサート(修了コンサート)」を実施します。マスタークラス&アンサンブルワークショップの聴講をご希望の方は、事前のお申し込みをお願い致します。

公開マスタークラス

8月26日(土)、8月27日(日)午後

講師:福田進一&ホセ・アントニオ・エスコバル 受講生:各日2名ずつ

ギターアンサンブル公開ワークショップ

8月26日(土)午後

講師:岩崎慎一、益田展行、猪居謙 受講生:13名のアマチュアギタリスト

■入場料:無料(要・入場券。当ホールチケットセンターのみのお取り扱い)　**＊お一人2枚まで。**
※26日は、1枚の入場券で両方(マスタークラス&アンサンブルワークショップ)に入場できます。
■お申込み方法:ザ・フェニックスホールチケットセンター
お電話もしくはご来店　TEL　06-6363-7999 (平日の10時～17時)
FAX　専用の申込み用紙に必要事項をご記入のうえ送信ください。
FAX　06-6363-1124　申込み用紙はホールホームページ http://phoenixhall.jp よりご入手可能です。
ウェブ　右記のURLからアクセスください。https://f.msgs.jp/webapp/form/10897_ddq_52/index.do

ギターサマー2017 フェスティバルコンサート(修了コンサート)　好評発売中!!

今年の修了コンサートは、フェスティバルコンサートと銘打ち、いつもとは違った様相で開催。マスタークラス受講生によるソロコンサートのほか、アンサンブルワークショップ受講生たち、そしてワークショップ講師たちによるアンサンブル演奏と盛りだくさん。クラシックギターに少しでもご興味をお持ちの方は是非。お勧めです。

8月27日(日)17:00開演　自由席　出演:公開マスタークラス受講生、アンサンブルワークショップ受講生、岩崎慎一、益田展行、猪居謙(以上ギター)

■入場料:1,500円(友の会割引なし。当ホールチケットセンターのみのお取り扱い)
※8月26日(土)19:00開演「福田進一&ホセ・アントニオ・エスコバル　ジョイントリサイタル」のチケットをご購入の方は無料。
(要事前申込み。定員200名になり次第、締め切らせていただきます。)
※学生券、友の会の割引はありません。
■お申込み方法:ザ・フェニックスホールチケットセンター:お電話もしくはご来店　TEL　06-6363-7999 (平日の10時～17時)

■会場:あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール　■お問い合わせ:ザ・フェニックスホール「大阪ギターサマー事務局」06-6363-0211 (平日9時～18時)

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演

平成28年度 文化庁芸術祭優秀賞受賞記念
林 裕　チェロリサイタル チェリスト=コンポーザー・コレクション

主催　音楽企画ユーモレスク

発売中

2017年10月8日(日)　14:00開演　自由席　一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150)　一般当日¥4,000(友の会価格¥3,600)

出演　林 裕(チェロ)、佐竹裕介(ピアノ)
曲目　B・ロンベルク:チェロソナタ ト長調 作品38-2
E・マイナルディ:チェロソナタ クアジ ファンタジア
A・F・セルヴェ:スパの思い出 作品2　ほか

埋もれているチェリストが書いた作品を発掘して、録音や演奏会を通じて広める活動をしています。ベートーヴェンから尊敬されていた生誕250年のロンベルク、カサドと同い年で生誕120年のマイナルディ、チェロのパガニーニと言われたセルヴェの作品を取り上げます。技巧的に華やかで歌心に溢れ、初めて聴いても昔から知っている曲のように懐かしいチェリストの作品。お気に入りの曲を見つけて下さい！

協賛公演

KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka No.1
三輪 郁(ピアノ) “イゾルデの愛の死”

主催　コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2017年10月11日(水)　19:00開演　指定席　一般前売・当日¥3,500(友の会価格¥3,150)　※友の会割引は前売のみ

出演　三輪 郁(ピアノ)
曲目　ワーグナー(リスト編):イゾルデの愛の死
J・S・バッハ(ブラームス編):左手のための「シャコンヌ」　ほか

2015、2016年に東京文化会館などで開催され、好評を博したリサイタルプログラムのダイジェスト版を大阪で！ 2016年公演には長年の共演者であるウィーン・フィル コンサートマスター フォルクハルト・シュトイデが聴衆として列席し“絶賛”！

協賛公演

CD「プレイズ・ショパンⅠ&Ⅱ」発売記念
藤井快哉 ピアノ・リサイタル

主催　藤井快哉ピアノリサイタル実行委員会

発売中

2017年10月17日(火)　19:00開演　自由席　一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)　学生前売・当日¥2,000

出演　藤井快哉(ピアノ)
曲目　オール・ショパン・プログラム
即興曲 第1番 変イ長調 作品29
前奏曲 第15番 変ニ長調「雨だれ」作品28-15
ピアノソナタ 第2番 変ロ短調 作品35
舟歌 嬰ヘ長調 作品60　ほか

長いキャリアの中で、すでに10枚もの室内楽CDを世に送り出してきたピアニスト藤井快哉が、今年4月、満を持してソロCD「藤井快哉プレイズ・ショパンⅠ」をリリース。好調な売れ行きのニューアルバムを引っ提げて、当ホールで5年連続となるリサイタルを開く。公演当日はソロCD第2弾「プレイズ・ショパンⅡ」の発売日でもあり、祝祭的な一夜になりそう。両CD収録曲も演奏されるので、公演前に「Ⅰ」を、終演後は「Ⅱ」を手に入れ当公演を何倍にも楽しみたい。

協賛公演

アフター・アワーズ・セッション 20周年記念演奏会

After Hours SESSION

主催　アフター・アワーズ・セッション

7/27(木)発売

2017年11月2日(木)　19:00開演　自由席
一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)　ペア¥5,000(友の会割引なし)　学生前売・当日¥2,000　※友の会割引は1会員2枚まで。

出演　日比浩一(ヴァイオリン)、三木香奈(ヴィオラ)、日野俊介(チェロ)、
南出信一(コントラバス)、植田恵子(フルート)、大島弥州夫(オーボエ)、
松原央樹(クラリネット)、世古宗 優(ホルン)、首藤 元(ファゴット)、右近恭子(ピアノ)
曲目　マルティヌー:九重奏曲 第2番　　薮田翔一:Nebula(日本初演)
モーツァルト:オーボエ四重奏曲 ヘ長調 K370　ほか

15周年記念公演から5年の時を経て、ザ・フェニックスホールにアフター・アワーズ・セッションが帰ってきました。前回のシュポア作曲の九重奏曲に続き、今回のメインもマルティヌー作曲の九重奏曲です。マルティヌーの九重奏曲は民族的情感をたたえ、さらにトリッキーな面白さも備えた名曲です。また、ジュネーヴ国際コンクールの覇者、薮田翔一氏による木管五重奏とピアノのための委嘱作品「Nebula」の日本初演も予定されています。

協賛公演

KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka No.2
阿部裕之 “オール・ラヴェル・プログラム”

主催　コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2017年11月6日(月)　19:00開演　指定席　一般前売・当日¥3,500(友の会価格¥3,150)　※友の会割引は前売のみ

出演　阿部裕之(ピアノ)
曲目　ラヴェル:夜のガスパール
亡き王女のためのパヴァーヌ　ほか

本年12月で終了する KCM Concert Series at Osaka Club Series の第6回公演(2005年)以来、同シリーズで毎年の常連として、室内楽とソロの両面で多彩なレパートリーを披露してきた阿部裕之が、そのフィールドをザ・フェニックスホールに移して、全集レコーディングも完了したライフワーク、ラヴェルのピアノ作品を一挙に演奏するという、謂わば集大成を聴くひととき。

協賛公演

東京オペラシティ リサイタルシリーズ
B→C周防亮介 ヴァイオリン・リサイタル

主催　公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

7/26(水)発売

2017年11月11日(土)　16:00開演　自由席　一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)

出演　周防亮介(ヴァイオリン)
曲目　シュニトケ:ア・パガニーニ(1982)
バルトーク:無伴奏ヴァイオリンソナタ BB124
尹 伊桑:大王の主題(1976)
J・S・バッハ:無伴奏ヴァイオリンソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005
イザイ:無伴奏ヴァイオリンソナタ 第5番 ト長調 作品27-5

東京オペラシティ文化財団の名物企画B→C(ビートゥーシー|バッハからコンテンポラリーへ)は、実力ある若手日本人アーティストをフィーチャーするリサイタルシリーズ。バッハと現代曲をメインにプログラミングする当シリーズに、ザ・フェニックスホールでは3年振り、7人目となる周防亮介を迎えます。今回、彼にとって初挑戦となるオール無伴奏プログラム。異なる時代の作曲家が1本のヴァイオリンに込めた思いをどのように表現するのか、注目のリサイタルです。

通りすがり客のためのコンサート？　—岡田暁生

Keizo Matsui

先日あるピアニストを聴きに、沖縄まで行ってきた。沖縄といっても那覇からさらにタクシーで1時間くらいかかる村の、公民館のような場所でのコンサートだ。彼はティグラン・ハマシアンといって、今ひそかに世界的に人気が出ているジャズ・ピアニストなのだが、生まれがアルメニア。家族と一緒にアメリカへ移住して、そこで勉強した後、今再び故郷アルメニアに戻ったらしい。「ジャズ」といっても、キーボードの即興の打ち込みによる環境音楽のようなサウンドと、アルメニアの物悲しい民謡と、少しコーランを連想させるような節回しと、ビートが効いたロック風のポリリズムが混ざったような音楽をやる。

このティグランの東京での演奏会は、またたくまに完璧に売り切れたそうである（浜離宮ホール）。しかし東京以外の場所での催しは、本人の希望により、すべて何かしら「自然環境」と近しい場所で行われた。福岡近くの古民家、屋久島では屋外、そして私が聴いたのは名護の近くの公民館。

「音楽＝音楽＋聴く場所」だと、つくづく思う。そして —— 言い方は悪いかもしれないが —— 辺鄙な場所へわざわざ出かけて行って、そして聴く音楽には、大都市におけるメジャー演奏家の「巡回ルート」ともいうべきホールではなかなか聴けないみずみずしい生気がみなぎる。音楽がその場所で生きて呼吸しているかんじがするのだ。

考えてみればホールとは、外界＝環境をシャットアウトして、音だけに集中するための、気密空間である。密閉されている。メリットは多々あれど、確かにそこでは何かが窒息する。別にホールの外が大自然である必要はない。都会の光景でもいい。ザ・フェニックスホールの舞台背後の壁があがって、夜の梅田の風景を見ながら聴くアンコールが格別であることは、このホールに来たことのある者なら周知の特別な楽しみだ。

そもそも音楽や演劇や舞踏は、かつて神様に奉納する儀式であった。日本でいえば薪能。ヨーロッパでいえば古代ギリシャ演劇。闇夜に紛れて、あるいは雲に乗って、人間の様子を見物しに来た神々に、それは聴かせたり見せたりするものであった。演者と観客という二極に加えて、この「偶然通りすがった第三者」という存在が出来ることで、パフォーマンス芸術が俄然活性化する。

客席に座って集中して音楽に耳を傾けたい人はチケットを買って入場する、しかしぶらっと立ち寄ってちょっと耳を傾けたいだけの人はただでホールのそばを通過させてあげる、ドア越しに行われている音楽を見物させてあげる —— こんな演奏会の形態をときどき夢見ることがある。そもそもコンサートホールの入口では、チケットという名の身分証明書の提示を求められ、それをもっていない人間は拒絶されるわけで、何やら厳重警戒中の空港にでも出入りするような気分になることがあるのだ。もちろんこんなことを言い始めたら演奏会という制度自体が成立しなくなることは百も承知だが、一度試しに「通りすがりのぶらり客はタダ」のコンサートをやってみる価値はあるのではないかと、ひそかに私は考えている。

岡田暁生(おかだ・あけお)／音楽学者、京都大学人文科学研究所教授

1960年京都生まれ。京都大学人文科学研究所教授。専門は近代西洋音楽史。著書『リヒャルト・シュトラウス　人と作品』(音楽之友社、2014年)、『オペラの終焉 リヒャルト・シュトラウスと〈バラの騎士〉の夢』(ちくま学芸文庫、2015年)、『音楽の聴き方』(中公新書、2009年、吉田秀和賞受賞)、『ピアニストになりたい』(春秋社、2008年、芸術選奨新人賞)、『西洋音楽史』(中公新書、2005年：韓国語版、2009年)、『オペラの運命』(中公新書、2001年、サントリー学芸賞受賞)など。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F　TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月　2017年7月
発　行　あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編　集　諸藤 修一
デザイン　松井桂三有限会社